

# 商店建築

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN / INTERIOR / ARCHITECTURE 2019 Vol.64 No.11

11  
2019

掲載写真: 2019年11月号別冊付録「KYOTO INTERIOR MAP」より

保存版！  
別冊付録  
京都  
インテリア  
マップ



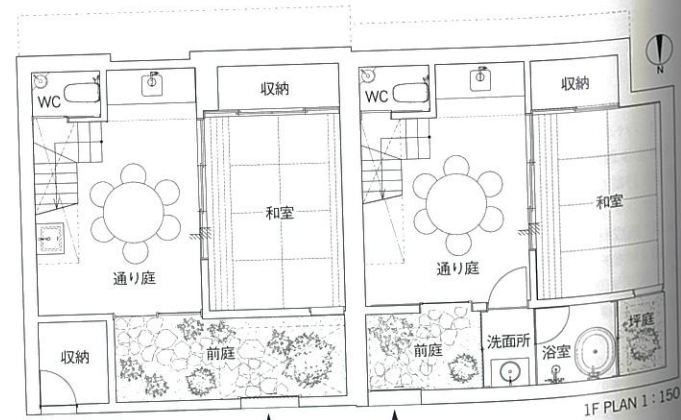
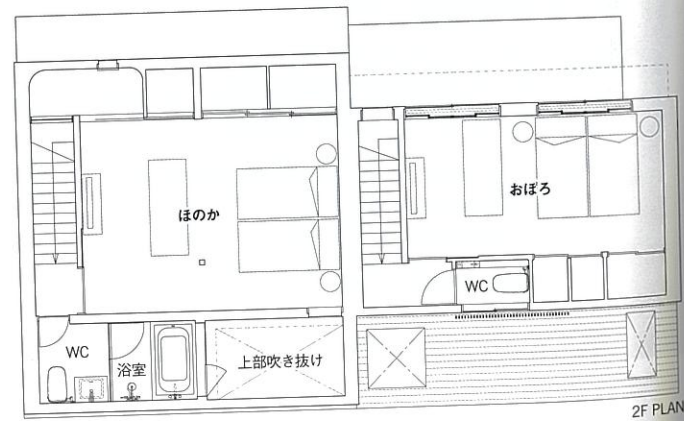
大特集

個性を打ち出す  
ホテル&ホステル





上/墨モルタル塗りの「ほのか」の通り庭を見通す。畳敷きの和室が縁側のように面している 下/白く浮かび上がる床の間。梁の木組みが光によって浮かび上がる



上/今回のリノベーションにより一新した客室、ヴィラスイートを見る。庭の池は屋根から落ちた雪の消雪作用も兼ねる 下/創業40年の旅館「龍宮」を改修し、雪国の文化を発信する宿「ryugon」としてリニューアルオープン。建物は19世紀に建てられた新潟の豪農の古民家を移築したもの



### 雪国文化を発信する宿

## ryugon

Hotel RYUGON, Niigata  
Designer Masato Ashida / Ashida Architects & Associates

新潟県南魚沼市坂戸1-6

企画・プロデュース/いせん 井口智裕

企画・クリエイティブディレクション/4CYCLE フジノケン

企画・設計/蘆田暢人建築設計事務所 蘆田暢人 野田歩夢(設計)

協力/ランドスケープデザイン スタジオゲンクマガイ 熊谷 玄 宮本 潤

植栽計画 TREEFORTE 石川洋一郎

照明計画 ライトデザイン 東海林弘靖 黒田 茜

家具デザイン ようび 大島正幸 山田千裕 齊藤文史

施工/森下組 大口祐樹 羽賀時男 川内翔太

高橋建設 井澤忠勝 石川浩久

撮影/繁田 諭



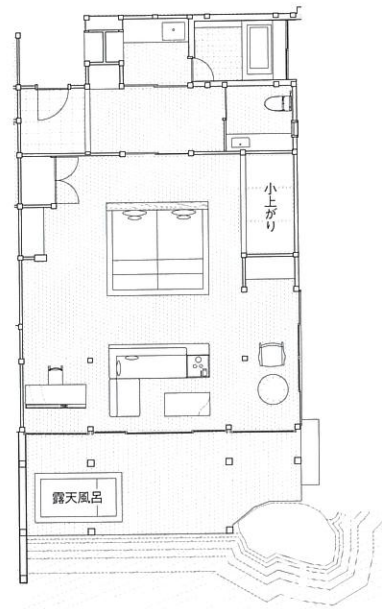


左上／共用部にある囲炉裏スペース。元階段スペースを吹き抜けにしたことで外光が白い壁に反射し、かまぐらの雪明かりを思わせる象徴的なスペースとなっている 左下／レセプションは国の重要文化財に指定されている建物にある。既存の要素を残しながら、古い蔵戸を見せた部屋の中央に温かみを感じさせる赤い円形ソファを置いた 右／共用部にあるバーカウンター。朝や夕方には軽食を提供している。バー、ラウンジなどコモンスペースを充実させることで、宿泊者同士のコミュニケーションが自然と生まれることを意図している





左/ヴィラ スイートの縁側に設けられた露天風呂。坂戸山の雄大な自然を眺めながら、湯につかる 右/庭園に面したヴィラスイート客室。障子などを撤去し、庭とつながる開放的なつくりとした



ヴィラスイート客室 PLAN 1:200



### 厳しさを豊かさに反転する建築

新潟県南魚沼市にある築約40年の老舗温泉旅館「龍言」の改修プロジェクト。この地域は積雪が2mを超える豪雪地帯である。過酷な冬と雪を、自然から与えられた恵みとして捉え直して生かし、雪国を象徴する新しいサステイナブルな旅館として再生することを目指した。建物は19世紀に建てられた古民家を移築してつくられており、豪雪に耐えるための骨太で

重厚なたたずまいを今に残している。一部は国の登録有形文化財に指定されている。大きな池を持つ大庭園はただの庭ではなく、屋根から落ちてきた雪を解かすための機能を担っている。雪国の建築は雪に対峙するために、極めて機能的で即物的な形状を持つ。しかし、雪への抵抗は、ともすれば自然との関係を切断することにもつながってしまいがちである。建築が雪や寒さから人を守ろうとするあまり、豊かな自然の恵みを遠ざけてしまう。国の指定文化財であ

る坂戸山を借景として持ち、街中にありながら豊かな環境に囲まれているこの「龍言」がまさにそうであった。

我々が試みたのは、建物の閉塞的な要素を全て取り除くことであった。窓もなく閉ざされた長い廊下を外部化して風景や風との接点を増やし、風通しを確保するために一部の棟を解体した。徹底的な引き算のデザインを行い、建築と自然を接続した。それにより、歴史を引き継ぎながら、雪国の四季の豊かさという新し

い価値を感じることのできるryugonへと生まれ変わった。〈蘆田暢人/蘆田暢人建築設計事務所〉

#### 「リュウゴン」data

協力: アクティビティプランニング/朝比奈千鶴 オペレーションプランニング/トリノガーデン 中谷一郎  
クオリティインスペクション/北村剛史  
工事種別: 内装のみ 部分改装  
床面積: 4579.74㎡  
工期: 2019年3月16日～7月11日  
施工協力: 空調・電気・給排水衛生設備/ローテック 厨房設備/マルゼン 家具/ようび

#### 営業内容

開業: 2019年7月11日  
チェックイン/アウト: 午後3時/正午  
電話: (025) 772-3470  
経営者: 藤龍言 井口智裕  
運営者: 藤いせん 井口智裕  
客室数: 30室  
平均客室単価: 3万8000円  
主な客室料金: クラシック2万4000～4万8000 ヴィラスイート5万6000～7万4000  
従業員数: 35人  
主な付帯施設: ダイニング、バー、ラウンジ、ショップ、ライブラリー、温泉施設、郷土料理体験施設

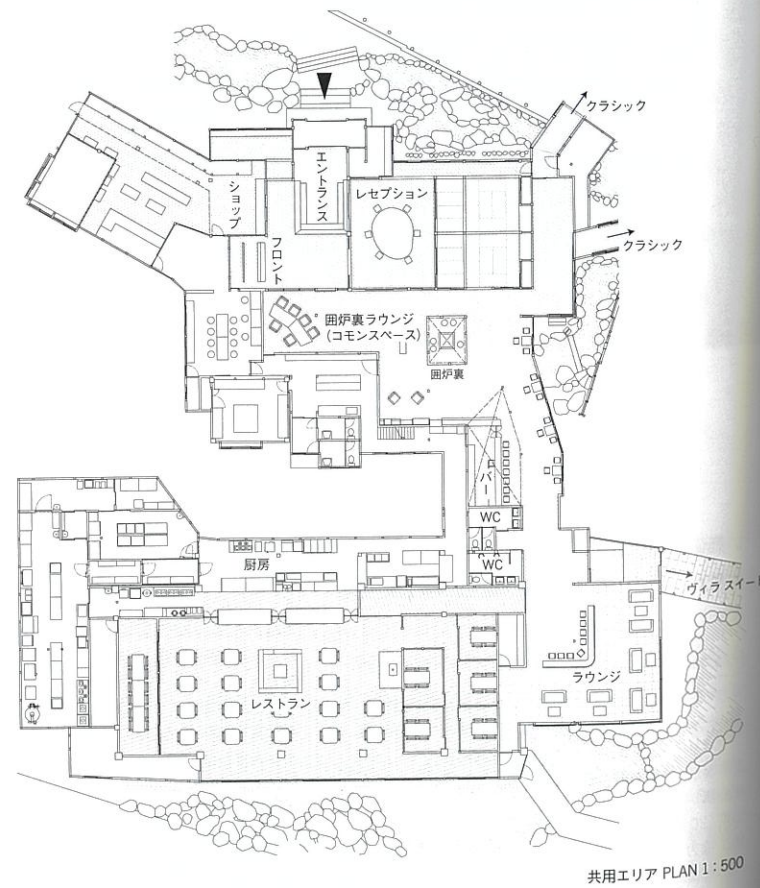
#### 主な仕上り材料

屋根・外部柱: 既存  
外壁: 既存 一部外装用塗り壁材吹き付け塗装(ジョリパット/アイカ工業)  
外床: コンクリート下地磁器質タイル300×600貼り(LIXIL)  
床: 木軸組みスラヴェシローズ無垢材t15 w90フローリング貼り(アンドウッド) クリ無垢材t15 w120、w75フローリング貼り(アンドウッド)  
壁: 既存下地AEP塗装補修 既存下地ビニルクロス貼り  
天井: PB下地ラウン合板EP(ワンコートオンリー・エボニー/オスモ&エーデル) ジョリパット吹き付け塗装  
家具: プナ材  
什器: アクリル系人工大理石(コリアン/デュボン・MCC)

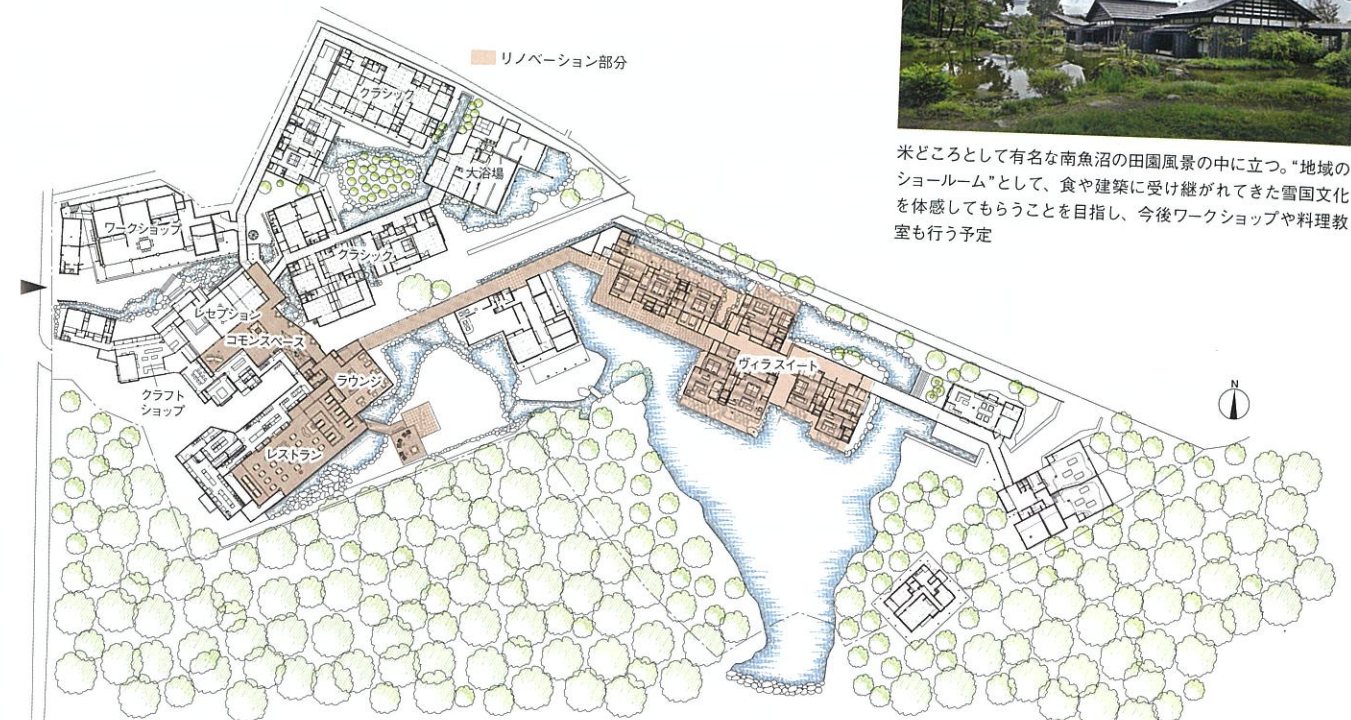




上／中央に炉を設けたレストラン。雪国の文化を伝える、地元の食材を生かした料理を提供する 中／母屋とヴィラスイートをつなぐ廊下。内廊下だった部分の外壁を撤去し、自然が感じられる外廊下としている 下／家具はオリジナル。岡山の家具工房よびが雪をテーマに制作した。降り積もった雪を思わせるブナ材のテーブル



共用エリア PLAN 1:500



SITE PLAN 1:1500



米どころとして有名な南魚沼の田園風景の中に立つ。"地域のショールーム"として、食や建築に受け継がれてきた雪国文化を体感してもらうことを目指し、今後ワークショップや料理教室も行う予定

**owner's comment** 田んぼを眺め、時を過ごす“異日常”を体験する宿 ryugon代表・井口智裕さん

創業50年を迎える新潟を代表する名旅館「龍言」の経営を引き継ぎ、雪国文化を発信する宿「ryugon」として、リノベーションしました。私自身は家業である越後湯沢の旅館「HATAGO 井仙」を経営する一方、10年前から新潟、長野、群馬にまたがる七市町村を雪国観光圏として捉えた地域ブランディングに関わってきました。冬になると3mもの雪が積もる豪雪地帯として知られる一帯は、昔から雪と生活が密接に結びついた共生文化を育んできました。雪の恵みである豊かな食や建築、織物、工芸などに地域特有の暮らしが息づいています。

「ryugon」はのどかな南魚沼の田園風景の中に位置し、雪国文化を表現するには理想的な旅館です。これまで掘り下げてきた雪国文化という抽象的なコンセプトをどのように伝えていくか。建築家の蘆田暢人さん、クリエイティブディレクターのフジノケンさん、オペレーションのパートナー等と交え、1年前から議論を重

ねてきました。私だけの考えではなく、街づくりなどのワークショップに近い方法で、みんなで話し合いつくり上げました。

「ryugon」の特徴は、地域と共生する宿です。静かに感性を研ぎ澄ませ、田んぼをぼんやりと眺め、時を過ごすインテリジェンスを育みたい。ポイントは、地域性を感じさせながら、ラグジュアリーな機能性をいかに両立させるか。そのため、 unnecessaryなものを省き、本質的なものを映し出すようなリノベーションを行いました。

旅館は、観光目的の団体客を相手にした宿から、次第に非日常味わう個人客を対象にした宿へと変化してきました。これからは、それぞれの地域の“異日常”を体験する宿へと進化すると思っています。そのために、「ryugon」では、郷土料理教室や藁細工などの工芸品づくりなど、地元と結びつけたワークショップを開催予定です。きのご狩りツアーや酒蔵巡りなどのアクティビティーも企画しています。今後は同じ哲学を

持った宿やレストランと雪国観光圏として緩やかにつながり、エリア全体を盛り上げていきたいと考えています。 (談／文責編集部)



雪国の恵みを受けた地元の旬の食材を生かした“雪国ガストロノミー”を提供 (画像提供／ryugon)

井口智裕／株式会社代表取締役。一般社団法人雪国観光圏代表理事。1973年新潟県南魚沼郡湯沢町生まれ。旅館の4代目として家業を継ぐ。2005年に「越後湯沢HATAGO井仙」リニューアル。13年一般社団法人雪国観光圏を設立。